

事項	いちご「さちのか」の超促成栽培における育苗ポットは9cm径が適する		
ねらい	「さちのか」を使って短日処理のみで花成促進し、10月以降に収穫を開始する超促成栽培における育苗ポット径を従来より小さいものに変えても収量・品質に影響がないことが確認されたので参考に供する。		
指導 参考 内容	<ol style="list-style-type: none"> 6月中旬に採苗し、苗の養生期間4週間程度で短日処理を開始して8月中旬に定植する場合、育苗ポットの大きさは9cmでも12cm径ポットと同等の収量が確保できる。 9cm径ポットを使用し、10a当たりの培土使用量は、12cm径ポットを使用する場合の約4割まで減らすことができる。 「さちのか」を使った超促成栽培における育苗ポット径は収量性と培土使用量、作業性から見て9cmが適する。 		
期待される効果	<ol style="list-style-type: none"> 超促成栽培における育苗管理技術として活用できる。 育苗作業の省力化、コスト低下を図ることができる。 		
利用上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 7.5cm径ポットは挿し芽する際の作業性が劣り、苗の老化も懸念されるため使用しない。 育苗中の培土の乾きすぎに注意してかん水を適切に行う。 短日処理は8時間日長とし、遮光率100%の資材を用いて行う。 定植は顕微鏡を用いて花芽分化を確認してから行う。 不受精果や種浮き果等の高温障害を軽減するために、定植期から9月にかけてハウス全体を遮光する。 翌春まで収穫を行うため、ハウス内最低温度5℃以上を確保できるように保温する。 冬期間の草勢を維持するため、11月中旬～2月中旬頃まで電照を行う。 		
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場 栽培部 (木下貴之、岩瀬利己)	対象地域	太平洋沿岸等の夏季冷涼地帯
発表文献等	平成18年度 青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 生育ステージ及び収穫開始時期

(平成17年 青森農林総研畑園試)

ポット径 (cm)	花芽 分化期 (月日)	短日処理開始後花 芽分化までの日数 (日)	出蕾期 (月日)	開花期 (月日)	収穫始期 (月日)	10a当たり 培土使用量 (ℓ)
12.0	8/2	20	9/8	9/19	10/30	6,000
10.5	8/5	23	9/9	9/20	10/29	4,000
9.0	8/4	22	9/6	9/16	10/26	2,500

- (注) 1 採苗時期：平成17年6月15日
 2 採苗方法：2葉齢苗をポットへ挿し芽してランナーは切除する。
 3 培土の窒素成分量は1ℓ当たり100mg、株当たり窒素成分量：12cm (60mg)、10.5cm (40mg)、9cm (25mg)
 4 培土使用量：10a当たり10,000株育苗する場合の使用量。
 12cmポット (約0.6ℓ)、10.5cmポット (約0.4ℓ)、9cmポット (約0.25ℓ)

表2 時期別商品果収量

(平成17年 青森農林総研畑園試)

ポット径 (cm)	時期別商品果収量											総計 (g/株)
	平成17年10-12月 (g/株)				平成18年1-6月 (g/株)							
	10	11	12	計	1	2	3	4	5	6	計	
12.0	4.9	11.7	24.5	41.1	10.5	—	—	53.0	160.0	71.3	294.8	335.9
10.5	8.1	23.2	16.7	48.0	7.3	—	—	67.2	121.7	79.0	275.2	323.2
9.0	14.3	15.5	13.0	42.8	2.7	—	—	60.6	143.3	79.0	285.6	328.4

- (注) 1 定植期～9月中旬までハウス屋根全体をダイオネット810SG (遮光率55%) で被覆。
 2 商品果は6g (8～10月は3g) 以上の形が整った果実とこれに準ずる6g以上の果実。

耕種概要

採苗時期	平成17年6月15日
短日処理開始 までの養生期間	28日
短日処理期間	平成17年7月13日16:30～8月11日8:30 (8:30～16:30の8時間日長)
定植日	平成17年8月11日
遮光	定植直前～9月下旬 (遮光率55%ダイオネット810SG使用、ハウスの屋根全体を被覆)
栽植様式	うね幅130cm、株間20cm、2条植え、条間20cm
施肥量 (kg/a)	基肥+追肥：窒素2.0+0.5、りん酸3.0+0.5、加里2.0+0.5
マルチの種類	定植～10月中旬：白黒ダブルマルチ、10月以降：セラシートダークグリーン
冬期の管理	農P0フィルムによる2重内張展帳による加温 平成17年11月12日～平成18年2月14日まで日没後3～5時間程度の電照を行った。